

～洛西からの一読～

今回のテーマは「ある日突然」

平凡に暮らすことが、どんなに大事で、大切なことかこの頃特に実感しています。突然起こる事もいろいろあります。できれば良かったねと言えることばかりだと嬉しいです。今回は、日常に起こった不思議な出来事です。本の中では非日常も快く受け止められそうです。



風にのってきたメアリー・ポピンズ

P. L. トラヴァース 著 林 容吉 訳 岩波書店

桜町通りに東風が吹いた時にやってきたメアリー・ポピンズは、バンクス家の4人の子どもたちの養育係になります。子どもへのしつけは厳しかったのですが、メアリー・ポピンズに見つめられると、従ってしまいます。彼女とお買い物に出かけた日、不思議なことが起こりました。いつもとはちょっと違ったお店でとっても美味しいジンジャーパンを買ってもらったのです。その店のおばあさんはまるで魔女のようでした。

気が付くといつもの街角にいるのですが、あたりを見回してもパンを買ったお店は消えていました。メアリー・ポピンズは、お隣の犬の会話がわかるし、ムクドリの声もしっかりと理解できるようです。不思議なことが起こってもだんだん慣れてきた子どもたちは、次はどんなことが起こるのかわくわくしてきました。しかし、桜町通りに西風が吹いた時、メアリー・ポピンズは去ってしまいました。その後は「帰ってきたメアリー・ポピンズ」「とびらをあけるメアリー・ポピンズ」「公園のメアリー・ポピンズ」と子どもたちを愉快にさせてくれるお話は続きます。



霧のおここのふしぎな町

柏葉幸子・作 杉田比呂美・絵 講談社

季節は少しさかのぼりますが夏休みの頃の話です。主人公のリナは父親から一人旅をすすめられます。目的地は「霧の谷」、最寄りの駅で下車したものの「霧の谷」を知っている人に会うこともなく、迷子のような気分です。ピエロの傘とともに突然あらわれた霧の中を抜けると、今までとは違った街並みの場所に立っていました。そこがどうやら「霧の谷」のようです。「霧の谷」ではピコット屋敷に下宿して、リナはこの町の住人たちと過ごし始めます。ピコット屋敷のおばあさんはリナに「働いてお金を手にする」という事を教えます。「私何もできない」とリナは思っていますが、リナの働きでいろんな人を幸せにしていきたいと思います。どんなふうには物語を読んでみてください。「霧の谷」での経験がリナを成長させていくようです。不思議な世界に行って帰ってくるファンタジーを楽しんでください。